

平成19年度手づくり郷土賞

全 体 講 評

「手づくり郷土賞」は、地域の個性、魅力、活力を創出している各種の良質な社会資本を広く発掘し、これを紹介することによって地域づくりの一助とすることを目的に昭和61年から実施しており、今年度で22回目を迎えました。

今年度は、昨年度に引き続き『地域整備部門』『地域活動部門』『大賞部門』の3部門について募集、選定をしました。

今年度の応募箇所の特徴としては、「地域住民の熱心かつ地道な活動」「従来の概念や手法とは異なるユニークな取り組み」「中心市街地の活性化を目指した取り組み」「歴史・文化など地域資源を活かした観光振興・地域活性化」などが挙げられます。いずれの箇所につきましても、地域の方々の熱意により、魅力的な整備や活動が実現していることが伝わってくるものでした。

それぞれの部門でみた講評は以下のとおりです。

『地域整備部門』では、地域住民が計画段階から事業に参加し、周辺の景観や自然環境との調和に配慮した整備をおこなっているものが多く見られました。近年の財政上の制約の中で、以前のような大型の施設整備中心の時代から、規模は小さくとも利用者の視点に立ち様々な工夫が施されているもの、既存施設を改良することで新たな魅力向上に繋がっているものなどが多く、むしろ内容的に充実してきていると感じました。その結果、整備後においても地域に親しまれ支えられる社会資本としてその魅力向上に繋がっています。

『地域活動部門』では、新しい発想によるユニークな取り組み、従来からの社会資本に改めて目を向ける活動など、創意工夫をこらしたものが多く見られました。地域の住民等関係者が自ら主体となって、身近な既存の社会資本を見つめ直し、地域の財産として後世に継承しよう、またそれを活かして活性化に取り組もうという熱意の下に、いきいきと活動されている姿が強く感じられました。

『大賞部門』では、「手づくり郷土賞」受賞後10年以上が経過した現在でも、地域の住民から親しまれ、良好な活用・維持管理がされているものが数多く見られました。さらに受賞後年月を経る中で、住民が更なる取り組みを付加・発展させることで、より一層地域の魅力や活力が向上していることに、手づくり郷土賞を選定してきた者として喜びを感じます。

今後も、多くの活動主体が自らの地域に誇りを持てるような、魅力的で活力ある地域づくり・地域の再生に取り組んでいくことを期待します。時代の様々な変遷を受け止めながら、地域活性化の新たな方向性、新たなスタイルを見いだし、地域の地道な「手づくり」を応援していくことに、この「手づくり郷土賞」が寄与することができれば幸いです。